

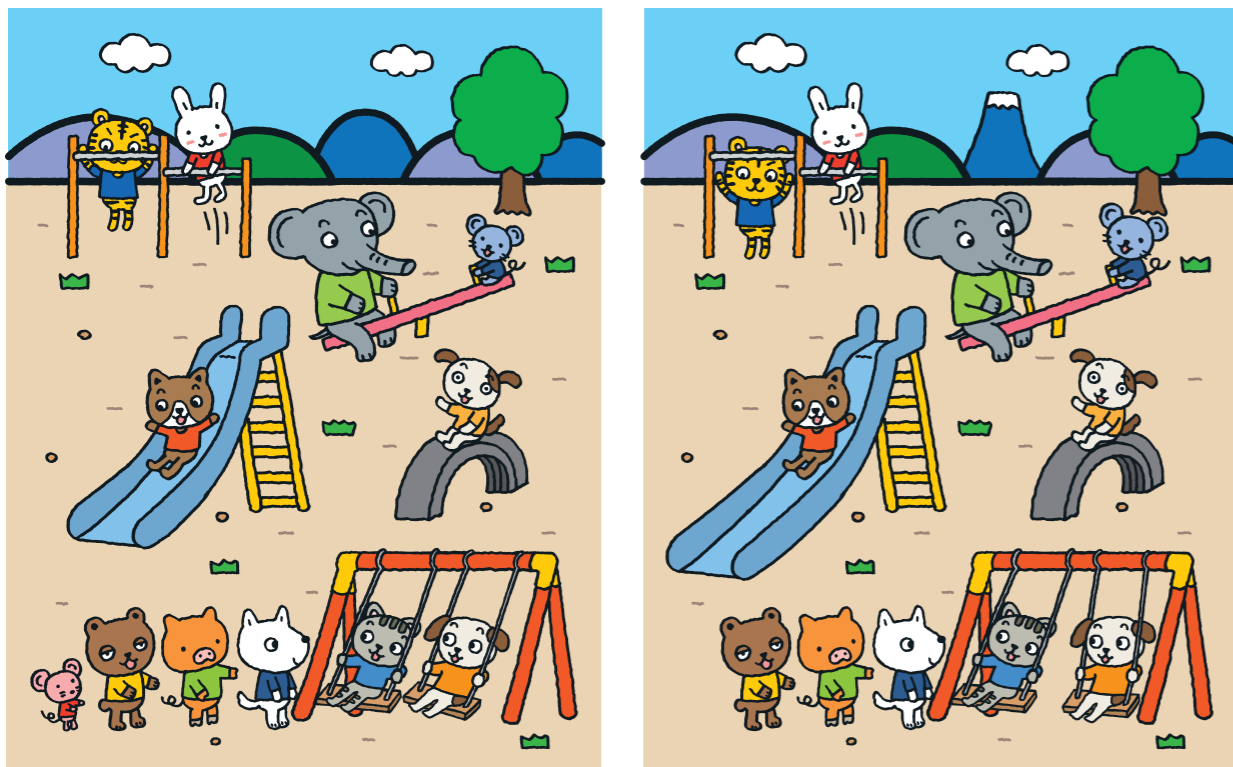
# パルフェ Vol.1

幼児期に取り組みたい遊びや学びを特集

## 【第1回】 見つけ遊び・間違い探し

その効果と取り組みのコツを脳の専門家・篠原菊紀先生が解説します。

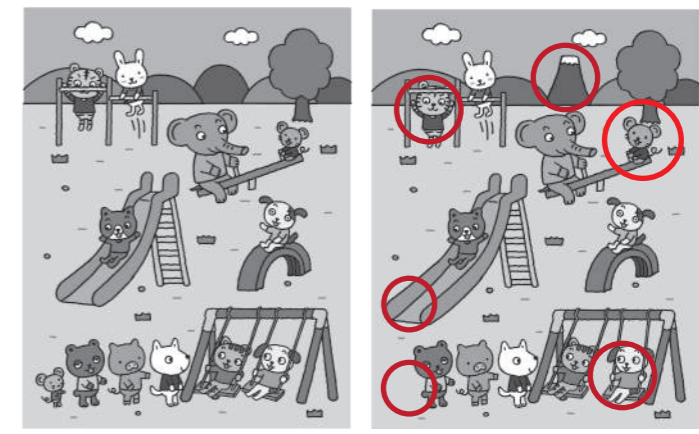
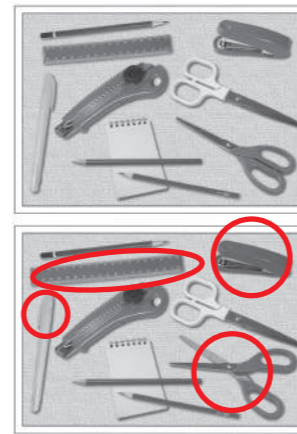
えをみてちがうところに ○をつけてね。6つ さがそう。



※家庭学習教材「月刊幼児ポピー」より転載しています。 答えは裏表紙に掲載しています。

園でご回覧ください

問題の答え



**年少**

**年中**

**年長**

「見つけ遊び・間違い探し」！  
もじかずくらぶで楽しく

幼児教室「もじ★かずくらぶ」では、3歳〜5歳クラスを対象に、遊びながらもじやかずに親しみ、こ とばを豊かにし、考える力・表現する力（非認知能力）を身につけます。

各年齢の成長に合わせ、こうした「見つけ遊び・間違い探し」などの「ちえ遊び」にも取り組みます。

「アハ体験状態」になって脳が活性化します。クイズなどで分かった瞬間「あっ」という強い感覚がおそってきますが、こういう体験が「アハ体験」と呼ばれ、直感・直観力や洞察力の基本形だと考えられています。

答えがわからなかったときは、ヒントを出してもらったり、答えを教えてもらったりしても大丈夫。「アハ体験」になります。

篠原菊紀先生からもう少しアドバイス

見つけ遊び・間違い探しは、答えがわかると「アハ体験状態」になって脳が活性化します。クイズなどで分かった瞬間「あっ」という強い感覚がおそってきますが、こういう体験が「アハ体験」と呼ばれ、直感・直観力や洞察力の基本形だと考えられています。

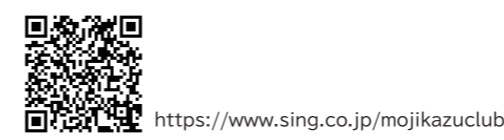
答えがわからなかったときは、ヒントを出してもらったり、答えを教えてもらったりしても大丈夫。「アハ体験」になります。

幼児教室「もじ★かずくらぶ」を運営する新学社はこんな会社です

全国の小学校・中学校で使用されているドリル、ワーク、資料集などの図書教材の出版社です。また、幼児～中学生向けの家庭学習教材『月刊ポピー』を全国のご家庭にお届けしており、『幼児ポピー』も40年以上の歴史があります。「もじ★かずくらぶ」の教材には、そうした教材作りのノウハウも活かされています。

もじ★かずくらぶ

ホームページ「もじかずひろばパルフェ」では、「教育情報」や「指導の工夫」などをご紹介します。





【脳の専門家・篠原菊紀先生が解説】

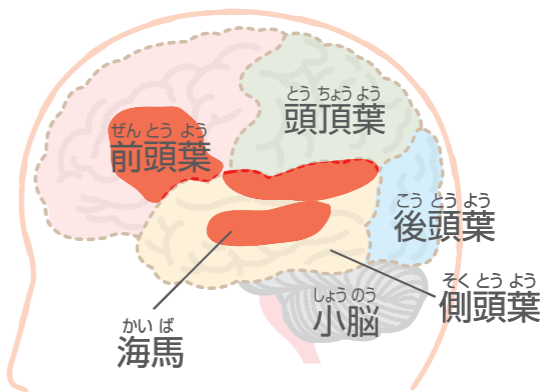
# 幼児期に「見つけ遊び・間違い探し」に取り組みたい理由

見つけ遊び・間違い探しはただの遊びに見えますが、きわめて重要な脳の力が関わっています。それはワーキングメモリ（作業記憶）と呼ばれる前頭葉の力です。

前頭葉はおでこのあたりにあって、考える、計画を立てる、がまんする、人の気持ちを理解する、注意して集中するなど、人に進化する際、大きく発達したと考えられる能力に深く関与する部分です。

その前頭葉の能力を支えるのが、ワーキングメモリです。記憶や感情情報をアクティブに保ち、操作する、そういう短期的な記憶の力です。「脳のメモ帳」とも言われています。ワーキングメモリを鍛えることなくして、

「知」の発達は望めませんし、「情」の発達も望めません。ワーキングメモリの力があるからこそ、考えを組み



赤い部分がワーキングメモリに関わる脳の部位です。

合わせることでもできるし、人の気持ちを推測することもできるのです。

見つけ遊び・間違い探しには、特に視覚的ワーキングメモリが必要です。

見本と同じものを見たり、違うものを見つかったりするとき、見本になるものを一時的に記憶して探します。だからワーキングメモリが鍛えられます。最初からできる必要はありません。答えを知ってからくり返すことでも、十分にワーキングメモリの訓練になります。



しのはらきくのり  
**篠原菊紀 先生**

公立諏訪東京理科大学情報応用工学科教授（脳科学、健康科学）。東京大学、同大学院教育学研究科修了。『頭がいい子を育てる8つのあそびと5つの習慣』（ティスカヴァー・トゥエンティワン）など著書多数。NHK夏休み子ども科学電話相談など、TVラジオ、雑誌でもご活躍。家庭学習教材『月刊幼児ポピー』を監修・指導。

## やってみよう！ まちがいさがし

ふた 2つの シャしんをよくみて ちがう ところに ○を つけましょう。4つ さがしてね。



▲ じつは、このように○をひいてね。

※家庭学習教材「月刊幼児ポピー」より転載しています。

答えは裏表紙に掲載しています。